

<h1>一年学年だより</h1>	No. 12	3月号
	令和6年2月28日	
	1年学年主任	

何のための勉強、誰のための勉強

入学してから、あっという間に約1年が過ぎました。充実した時間を過ごすことができたでしょうか。高校生は忙しく、家庭学習時間を確保することは難しいミッションです。しかし、大半の人は、放課後や休日に、スマホを触る時間は十分に確保できているのです。勉強よりもスマホの使用を優先させ、先生や保護者に時間の使い方について注意されたことがある人もいるはずです。私も、「やりたいことよりも、やるべきことを優先させなさい」と言い続けてきました。

「なぜ勉強しなくてはいけないのか」という疑問に対し、全員を納得させるような答えを私は持ち合わせていません。「進学するんだよね？」と返すことは簡単ですが、当然、進学後も勉強は必要です。詩人・書家の相田みつをさんの有名な言葉で「一生勉強 一生青春」というものがあります。新しい可能性と出会うには常に勉強することも大切で、その挑戦と努力を続ければ、人を魅了するような豊かな人生が送れるだろうという意味が込められています。勉強を通して視野が広がり、柔軟な思考力が育ちます。変化の激しい現代社会において、それは非常に重要なスキルです。勉強することで、進学時や就職時はもちろん、様々な場面で選択肢が広がり、人生が豊かになることは間違いありません。

私は数年前、特別支援教育士（S.E.N.S）の資格を取得しました。資格取得のためには、養成セミナーを受講し、毎回の試験に合格して、ポイントをためなければなりません。36ポイントを取得した上で、資格認定審査（書類審査・筆記試験）に合格することが必要でした。セミナーを実施している一番近い会場が大阪だったので、金曜日の勤務を終えて夜行バスに乗り、土曜日の早朝に大阪へ。会場が開くまでマックで予習をしながら過ごし、朝から夕方までセミナーを受講するという週末を何度か繰り返しました。試験は全て一発合格したものの、学校行事や部活動の大会、家族の用事等と重なって参加できないこともあり、必要なポイントをためるまでに約3年かかりました。高校3年間の勉強を経て臨んだ大学入試のときと比べると、体力も記憶力も衰えており、仕事、家事、子育て等の合間の勉強はかなりハードでしたが、自分でやると決めた勉強は充実感があり、レベルアップしていく自分に自信ができました。特に、「私たちの教え方で学べない子には、その子の学び方で教えよう」という考え方は、教員としての自分を大きく成長させてくれました。勉強すれば、必ず過去の自分より賢くなります。自分自身の成長を感じることで、自己肯定感を高めることができるはずです。

今、勉強が嫌で仕方ない人は、勉強を「やらされている」からです。「学校の勉強なんて社会で役に立たない」と言う人がいますが、決してそんなことはありません。今、勉強する努力を怠っていたら、社会に出たときに新しいことを学習する方法が分からず、それを乗り越えるための忍耐力もなく、あきらめる場面が多くなるかもしれません。学校での勉強は自分の時間を管理し、効率的な学習方法を見つける機会でもあるのです。一生懸命頑張っても、納得がいく結果が出ないことがあります。しかし、たとえうまくいなくても、自分の現在の能力を正確に把握することで能力は高められ、将来成功する可能性が大きくなります。本当に恐ろしいのは、努力しきれない状態を続けているうちに、成長するチャンスまでも逃してしまうことなのです。

「何のための勉強か」に対する答えは一つではありませんが、「誰のための勉強か」の答えは、「自分自身」一択です。仮に「困っている人たち」のためであったとしても、それを助けられる「自分自身」のためです。

高校生活の3分の1が間もなく終わります。残り3分の2をどう過ごすのか、進級前にじっくりと考えてみてください。何もせずに、どうにかなったりはしません。誰かがどうにかしてくれるわけでもありません。自分の将来のために、今、何が必要で何をすべきなのか、具体的にやるべきことを見据えた状態で、次の学年を迎えましょう。